



第3回水道用塗料等の浸出試験調査専門委員会（3月4日）

水道用 GX 形ダクタイル鋳鉄管・異形管の外表面塗装の浸出試験結果、及び水道用合成樹脂（耐衝撃性硬質塩化ビニル）製ソフトシール仕切弁用 EPDM ゴムの浸出試験結果について審議し、浸出試験結果が水道施設の技術的基準を定める省令別表第2（基準値）以下であること、また、日本水道協会規格で定めた規定値以下であることを確認した。

第159回水質試験方法等調査専門委員会（3月5日）

厚生労働省健康局水道課 尾川水道水質管理官から、農薬類の分類見直し、検査法、水道水質検査精度管理に関する研修会の内容等、最近の水道行政の動向について説明があった。

その後、水質試験の検量線及び濃度範囲等について提案があり、各部会で提案内容、上水試験方法の改訂及び新たな試験方法について検討を行った。

水道 GLP 認定授与式（3月18日）

水道 GLP 認定委員会で認定の更新が決定した（社）山梨県食品衛生協会（認定番号：JWWA-GLP046）の認定証授与式を日本水道協会専務理事室において行った。



第235回衛生常設調査委員会（3月19日）

各委員の近況報告後、水道用塗料等の浸出試験調査専門委員会から、①水道用 GX 型ダクタイル鋳鉄管・異形管外表面塗装の浸出試験結果、②水道用合成樹脂（耐衝撃性硬質塩化ビニル）製ソフトシール仕切弁用 EPDM の浸出試験結果について報告があり、審議の結果、それぞれ原案通り了承された。

次いで、③水道用資機材－浸出液の分析方法（JWWA Z 110）の改正案について審議し、一部用語の使い方について、修正し了承された。

第173回工務常設調査委員会（3月21日）

JWWA 規格の制定（水道用 GX 形ダクタイル鋳鉄管・鋳鉄異形管）、JWWA 規格の改正（水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル製ソフトシール仕切弁、水道用硬質ポリ塩化ビニル管のダクタイル鋳鉄異形管）、今後の JWWA 規格の検討（水道用ソフトシール仕切弁、水道用急速空気弁）、はじめての水道設備～水道設備研修用テキスト～、水道工事監督業務委託検討報告書、水道施設管理業務第三者委託積算要領（案）、水道施設管理業務検討専門委員会（中間報告）、指定給水装置工事事業者研修テキスト2013等について審議し決定したほか、水質の最新情報等について報告を行った。



水道 GLP マネジメントレビュー（3月25日）

日本水道協会は、尾崎専務理事並びに関係者出席のもと、水道 GLP マネジメント・レビューを実施した。プログラムに沿って事務局から、水道 GLP の審査・認定状況、水道 GLP 認定品質マニュアルの改訂、内部監査結果の評価プロセス等について報告した。専務理事から、水道 GLP は水道水質検査機関に広く普及しているが、今後も、審査内容が公平・中立・厳正に行われるよう、審査技術の向上や審査体制の充実・強化を図るよう指示があった。



第76回水道 GLP 認定委員会（3月26日）

水道 GLP 認定について、（財）宮城県公衆衛生協会（申請番号：JWWA-GLP095）、（株）総合環境分析（申請番号：JWWA-GLP096）が新規に審議され決定された。また、認定更新検査機関として長崎市上下水道局（認定番号：JWWA-GLP047、3月24日付）、山形市上下水道部（認定番号：JWWA-GLP048、3月24日付）が、認定維持検査機関として水戸市水道部（認定番号：JWWA-GLP072）、新潟東港地域水道用水供給企業団（認定番号：JWWA-GLP073）が、更新後の認定維持検査機関として札幌市水道局（認定番号：JWWA-GLP022）、（一財）東海技術センター（認定番号：JWWA-GLP023）が、（一財）岐阜県公衆衛生検査センター（認定番号：JWWA-GLP024）が、それぞれ審議され決定された。

第88回検査事業委員会（3月27日）

はじめに、報告事項①第87回検査事業委員会議事録、②平成24年度のJIS製品認証業務の審査状況、③検査業務に関するシステム文書の作成計画については、事務局より説明し了承された。

次に、議題①水道用ポリエチレン管金属継手検査施行要項の改正、②水道用分水栓検査施行要項の改正、③水道用止水栓検査施行要項の改正、④水道用ポリエチレン管サドル付分水栓検査施行要項の改正、⑤水道用仕様書品の検査に関する規則の改正、⑥検査関係諸様式に関する要綱の改正については、検査施行要項等専門委員会委員長の久保大阪市水道局工務部技術監理担当課長から説明を行い、異議無く了承された。

議題⑦検査工場の登録の取消し及び検査の一時停止基準要綱の改正については、検査施行要項等専門委員会に付託することになった。

議題⑧日本水道協会検査旅費要綱の一部改正については、事務局より説明し了承された。

第5回耐震技術検討委員会（3月28日）

①耐震設計アドバイザー制度の試行、②耐震設計事例集の作成、③耐震設計の手引の作成について審議検討を行った。

耐震設計アドバイザー制度は平成25年度に試行を実施し、平成26年度の本格実施に向け課題の整理及び制度の確立を図る。また、耐震設計事例集は平成25年9月、耐震設計の手引は平成26年2月の完成を目的に、いずれも検討を継続することとなった。

第8回水道GLP運営委員会（3月28日）

日本水道協会は、平成24年度水道GLP運営委員会（委員長 眞柄泰基トキワ松学園理事長）を開催し、水道GLPの審査・認定状況等を報告した。眞柄委員長から、水道GLPは8年目を迎え、90余箇所が認定され、水道水質検査の信頼性向上に多に役立っている。今後、システム全体を点検するとともに、審査技術の向上を図るなどして厳格な審査を確保するよう意見を受けた。

